

県設備設計事務所協会賛助会員総会

相互協力で技術向上



賛助会の活性化に意見を——と挨拶する窪会長。鹿児島市のアクアガーデンホテル福丸で。

在り方や活性化について意見をい。今年度もよろしくお願。と呼び掛け。

その後、小島会長が協会基本資料を説明。

迫田修専務理事は協会17年度事業報告・収支決算、18年度事業計画・予算について報告した。このうち、新年度事業計画の重点事項として、①新規事業開拓への活動②新たな市場環境への対応と技術の研

総会では、初めに小島会長が「協会では昨年度、受注の拡大、技術の研さん、業務の効率化に取り組んできた。今年度も会員が一致団結し、受注拡大を目指すとともに、賛助会員の皆さんの協力をい。また、賛助会員として(株)エビハラの新人会も報告された。

新年度事業計画の重点事項として、①新規事業開拓への活動②新たな市場環境への対応と技術の研さん向上③賛助会活動の活性化などを掲げている。また、賛助会員として(株)エビハラの新人会も報告された。

新支部長に桐原氏



桐原 治喜新支部長

県表具内装組合連合会(郎支部長)は25日、鹿児島市のホテル満秀で第15回定期総会を開いた。全表具連合大会、九表連合大会への参加を盛り込んだ新年度事業計画を決めたほか、任期満了に伴う役員改選では、新支部長に桐原治喜氏(桐原内装表具店)を選出した。



議事では、前島良一氏(前島表具店)を議長に、17年度事業経過・収支会計報告、18年度事業計画・収支予算案などを審議。可決承認した。新支部長に就任した桐原氏は、

建築改修工事の積算研修会

算出ポイント学ぶ

日本建築積算協会九州支部

全力で組合を盛り立てていきたい」と抱負を述べた。新役員は次の通り。

建築、県技能まつりへの参加など。新役員は次の通り。▽支部長 桐原治喜▽理事 本房博臣(南日本表具)▽会計 藤田親康(藤田広華堂)▽監事 前島良一▽相談役 片平貞夫(片平ふすま内装)

「建築改修工事の積算」に係る研修会を開いた。建築設計や施工、積算に携わる関係者約60人が参加し、改修項目に応じた積算方法等について詳しく学んだ。

研修では、同協会九州支部の青柳正尚副支部長が講師を務め、建築改修工事の概要や仮設、防水、外壁、内装など各項目別の積算方法等について解説。



養生計画における留意点についても学んだ。研修会 鹿児島市のポリテクセンター 鹿児島で。受講者には、県建築士会継続能力開発(CPD)制度において6単位が認定される。

開放的な生産の場に

始良造園建設業協会、里山の再生整備

始良造園建設業協会(岸野純一会長)は27日、霧島市溝辺町竹子の国道504号沿いで、17年度地域森林環境づくり促進事業による補助金を活用した「里山の再生整備」を実施した。

有林約1500㎡を所有者の承諾を得て同協会が整備を進める。当日はバックホーで竹根を伐根した後、サクラやモミジなどの高木6種類、ハクサンボクやマユミ等の中・低木8種類、クマザサやツワブキ等の地被類15種類の計1400本を植栽した。今回の植栽に先立ち、14日、間伐や除伐を実施したが、現地には空き缶やペットボトルのほか、タイヤやテレビ、冷蔵庫など大量のごみが不法に投棄されていた。

同協会は、管理放棄された荒廃しつつある里山を、明るく開放的な生産の場として、また遊山の場として再び地域住民に利用してもらおうと同協会が計画したもの。旧道敷部分は奥加治木土木事務所が整備し、背後の民

同協会では、県道単人加治木線15年から取り組んできた試験施工の結果、整備された場所にはごみがほとんど見られなくなった経験を活かす。今後同整備を進めていけば、不法投棄も大幅に減少する

県建設業協会鹿児島支部

作業員の安全意識を

県建設業協会鹿児島支部(純浦勝志支部長)は24日、17年度第2回安全管理・雇用改善パトロールを実施。川内労働基準監督署をはじめ県内土木事務所、鹿児島市土木事務所、鹿児島市支所の診断員らと2班編成で6カ所の現場を診断した。本部からは園田俊秀専務副委員長と岡村一義専務部長が同行。一義専務部長は「安全は、現場で反省を促すことが大切だ。今後とも



安全意識の向上を図った。また大土橋修造土木田勉川内警察署鹿児島支部派出所長らが講評を述べた。診断結果は、1班・四角仁忠診断員(株)ヨシミ建設と2班・西手貢診断員(巡田建設)が発表。「現場に危険ポイントは何かと聞くと皆きちんと答えてくれた。一番大切なのは作業員の安全意識の高揚だ。現場で反省を促すことが大切だ。今後とも

現場の無災害訴える

県建設業協会屋久島支部

安全専門官、県建設業協会(濱崎典弘支部長)は24日、屋久島の3現場を対象に安全管理及び雇用改善パトロールを実施し、年度末の現場の無事故災害を訴えた。

パトロールには、支部役員ら11人、屋久町会員13社18人を始め、鹿児島労働基準監督署安全衛生課の職員らも参加した。



安全意識の向上を図った。また大土橋修造土木田勉川内警察署鹿児島支部派出所長らが講評を述べた。診断結果は、1班・四角仁忠診断員(株)ヨシミ建設と2班・西手貢診断員(巡田建設)が発表。「現場に危険ポイントは何かと聞くと皆きちんと答えてくれた。一番大切なのは作業員の安全意識の高揚だ。現場で反省を促すことが大切だ。今後とも



同協会では、県道単人加治木線15年から取り組んできた試験施工の結果、整備された場所にはごみがほとんど見られなくなった経験を活かす。今後同整備を進めていけば、不法投棄も大幅に減少する